

## 「最後まで強かった父」

矢野 美沙子(愛媛県伊予郡松前町／二十四歳)

「わこのじいじは気にせず今まで通り過ごしてほじ」

がんだとわかった日、お父さんはそう言ったよね。私はお母さんから、お父さんががんだとわこのじいじを聞いてすいへんショックで、「治るぢやないっ」って何度も聞いた。

お母さんは「治るに決まってるやろ。お父さん頑張るけん」って言ってた。その言葉を私はお父さんが天国に行くまでずっと信じてたんだよ。でも本当は余命一年って言われてたんだね……。

小さい頃からお父さんっこだった私は、車もご飯食べる席も何でもお父さんの隣、お風呂も一緒に浴びて男風呂にもよくついていってたよね。何があっても私の味方で、いつも応援してくれるお父さんが本当に大好きだったよ。

病気がわかってからは、お父さんの前ではいつも笑顔でいようと必死だった気がする。お父さんは笑ってる私が好きだと思ったから。でも気づけば笑顔でいるのが辛くなって、家に帰りたいって思ったこともあってお父さんをさけてしまったこともあったよね。本当にごめんね。辛くて、不安で、でもこの気持ちをぶつける場所もなくて、お父さんの前でただ泣いてしまったこともあったね。辛くて泣きたいのはお父さんだったよね。それなのに「大丈夫。もうすぐ新しい治療も薬もできるから」って前向きに言うてくれたよね。やっぱり強いよ、お父さんは。

最後に入院した時も、痛みを堪えながら、「おやじのたうちまわる姿を見るな」って言うたよね……本当は見たくなかったよ。でもお父さんが一生懸命生き抜こうとしている姿として、目にやき付けておこうと私も必死だった。息が絶えるまで全身で頑張ってた姿、今でもしっかりと覚えてるよ。

あの時どうしても伝えなかった「お父さんの子どもでよかったよ。ありがとう」って言葉聞こえてた？人生で初めて心の底からでた言葉だったと思う。お父さんには何もしてあげられなくていっぱい後悔があった。最後の最後に私にできることは何か……考えてお父さんの代わりに私がみんなに「ありがとう」を伝えることだと思ひ、葬儀で挨拶させてほしいってお願いしたんだよ。涙でつまって上手く言えなかったけど。でもお父さんの気持ちはみんなの心に届いたと信じてる。

たぐさんの愛情をありがとう！

最後まであきらめない気持ちを教えてくれてありがとう！

いつも味方でいてくれてありがとう！

そして、これからもよろしくお願ひします。



白い羽根のポスト